すゝめ

患者さんと慶應義塾大学病院をつなぐ
コミュニケーションマガジン

KEIO UNIVERSITY HOSPITAL
Communication Magazine

Vol. 16
July 2022

ご自由にお持ちください

慶應義塾大学病院グランドオープン

慶應義塾大学病院は、2022年5月16日にグランドオープンを迎えました。
教職員が心を新たに一丸となって慶應医学・医療のさらなる発展を目指し、
よりいっそう患者さん目線の、質の高い安全な医療を提供してまいります。

広報誌タイトル「すゝめ」とは

タイトルは明治5年から9年にわたって出版された17編を数える
福澤諭吉の大ベストセラー『学問のすゝめ』に因んでいます。

Keio Forest　慶應義塾の杜

新しくなった病院は「Keio Forest 慶應義塾の杜」をデザインコンセプトとし、病院全体がやさしい杜のイメージで表現されています。敷地の玄関となる「杜のゲート」が来院者をお迎えし、休息や憩いの場であるウッドデッキ「杜のテラス」や広場「杜のプラザ」を左に見ながら、並木通り「杜のプロムナード」がエントランスに導きます。病院を訪れた方が心地よく感じ、患者さんが安心して医療を受けることができる環境となっています。

国産初の手術支援ロボット「hinotori」導入

泌尿器科 医師　松本（まつもと） 一宏（かずひろ）

hinotori手術を執刀する左から安水洋太医師、武田利和医師、松本一宏医師、田中伸之医師

慶應義塾大学病院では、国産初の手術支援ロボット「hinotori（ヒノトリ）」を導入し、2022年5月19日に泌尿器科にて第1症例目の前立腺摘出手術を実施しました。当院では2016年より米国製手術支援ロボット「daVinci（ダヴィンチ）」を導入しておりましたが、適応疾患の広がりにあわせてこれからは2台体制でロボット支援手術を行っていきます。

ロボット支援手術は、腹部に数か所小さな穴を開けて、ロボット本体と連動している内視鏡カメラと鉗子（電気メスやハサミなどが付いた手術器具）を体内に挿入して行う手術方法です。術者は患者さんから少し離れた操縦席で、3D画像を見ながらロボットを操作します。

ロボット支援手術の利点としては、まず患者さんの負担軽減が挙げられます。従来の開腹手術に比べると小さな傷で手術が行えるため、術後の痛みが少なく回復までの期間が短くて済みます。また、二酸化炭素を注入して広げたお腹のスペース（気腹）の中で手術操作を行うため、二酸化炭素の圧力により出血が抑えられるといったメリットもあります。そして、ロボット支援手術の最大の特徴は、その手術精度の高さです。術者はたとえ体の奥底であっても、内視鏡カメラにより拡大された鮮明な3D画像で見ることができます。また、ロボット鉗子の先端の関節は人間の手首の関節よりも多く、人間の手では困難な動きが可能なうえ、手ぶれが補正された繊細な手術操作が可能となります。つまり、患者さんにも術者にもメリットの多い手術であると言えます。

亜急性期脊髄損傷に対するiPS細胞を用いた再生医療

―治療法のない脊髄損傷を治すために―

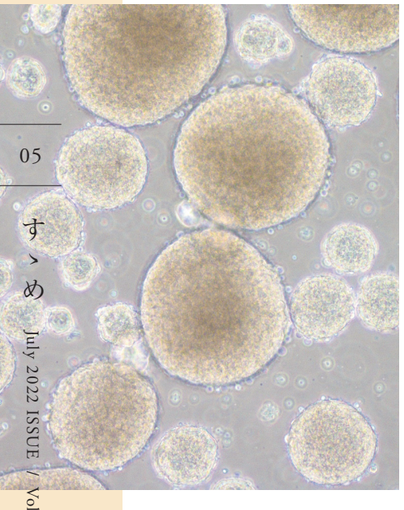
中村雅也医師
（2022年1月14日記者会見にて）

岡野栄之医師
（2022年1月14日記者会見にて）

2021年12月、整形外科学教室と生理学教室が合同で準備を進めてきた、亜急性期脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療の臨床研究について、第1症例目の移植手術を実施しました。

今回、世界で初めてとなる、脊髄損傷に対するヒトiPS細胞由来神経前駆細胞の移植手術が行われました。脊髄損傷の治療はリハビリテーションが中心で、根本的な治療法はいまだ確立されていません。今回の手術は、移植細胞や移植方法の安全性を確認することを主目的として行われたもので、脊髄損傷に対する治療の新たなスタートとなります。

現在は2例目以降の手術に向けた準備を進めています。また、亜急性期の脊髄損傷だけでなく、慢性期の脊髄損傷についても臨床研究に進められるよう、研究チーム一丸となって日々取り組んでいます。



生理学教室 医師　岡野（おかの） 栄之（ひでゆき）

1998年に、MusashiというRNA結合蛋白質を指標に、ヒト成体脳に神経幹細胞があることを世界で初めて発見する事が出来ました。これをきっかけに、二度と再生しないと考えられてきた中枢神経系の再生医療を目指した研究を始めました。この中で、脊髄損傷の再生医療の開発は、一丁目一番地として、生理学・整形外科という基礎・臨床一体の共同チームとして進めてきました。やっと最初の臨床応用が始めることができ、大きな手応えを感じております。世界的にも大きな注目を浴びているプロジェクトとなりましたが、しっかりと患者さんに届く医療としたいと思います。

整形外科学教室 医師　中村（なかむら） 雅也（まさや）

20年以上行ってきた基礎研究、橋渡し研究が結実し、第1症例目の移植手術という大きな節目を迎えることができて感慨ひとしおです。これまで研究に関わってくれた多くの大学院生たちに、この場を借りて深謝したいと思います。ただその一方で、これからがいよいよ本当の意味での正念場だと思っています。今回の臨床研究の対象である亜急性期の脊髄損傷患者さんのみならず、慢性期脊髄損傷患者さんに脊髄再生医療を一日でも早く届けるために、引き続き整形外科・生理学教室が一丸となって、基礎・臨床一体型の研究に邁進していきたいと思います。

※今回手術を実施した臨床研究「亜急性期脊髄損傷に対するiPS細胞由来神経前駆細胞を用いた再生医療」は、移植時に、受傷後14日から28日までの亜急性期の方を対象としたものです。

特集記事
（医学部ウェブサイト Features）

脊髄再生医療
専門サイト

がんの親を持つ子どものサポートチーム（SKiP）「CLIMB®プログラム」のご紹介

当院では、がんの親を持つ子どものサポートチーム
Supporting Kids of Parents with Cancer　通称 SKiP（スキップ）が活動しています。

＊CLIMB：Children's Lives Include Moments of Bravery（「子どもはいざというとき勇気を示します」という意味です）

イラスト：玉川 知鮎（薬剤部／医療安全管理部）

SKiPとは

SKiPとは、医師や看護師、薬剤師、診療放射線技師、医療ソーシャルワーカーなど多職種で構成されているチームで、活動のひとつとして、がんの親を持つ子どもを支援するためのプログラムを開催しています。病気という家族の一大事の中で、親は子ども抜きで病気への対応を考える傾向にあります。一方で子どもは、真実が伝えられていなくても、親の様子からいつもと違うことを察し、自分を責めたり、最悪のことを想像したりしがちです。子どもに〝親のがん〟という家族に起きていることを伝え、事実や気持ちを共有していくことが大切であるとさまざまな研究から明らかになっています。

当院ではがんの親を持つ子どもを支援する主なプログラムとして、子どもが親の病気や治療を知り、治療に関連した病院内の施設を探検する「キッズ探検隊」、子どもの持っている力を引き出し、親の病気に関連するストレスに対処していくための能力を高める「CLIMB®プログラム」があります。今回は、10月に開催を予定している「CLIMB®プログラム」について紹介いたします。

CLIMB®プログラムとは

CLIMB®プログラムはアメリカで広く用いられ、日本でも注目されているがんの親を持つ子どものためのグループワークです。親ががんであることを伝えられている学齢期の子どもを対象として、このプログラムを行うための専門のトレーニングを受けた医療者が実施しています。

CLIMB®プログラムの目的

子どもが「親ががんであること」を聞いたとき、悲しくなったり怖くなったり、時には怒りを感じてしまうのは普通のことであること、その気持ちは自分だけではないことを学びます。プログラムでのさまざまな活動は、子どもたちが気持ちを抑え込んだり、感情に圧倒されたりすることなく、気持ちを安全な方法で自分自身や自分をお世話してくれる人に表現していくことを助けます。

また、がんの親を持つことやさまざまな感情を抱くことは自分だけでなく、同じ立場の仲間がいることを認識してもらうことも目的のひとつです。

CLIMB®プログラムの内容

1回90分×4回のプログラムで、各回、異なる感情を取りあげ、工作などの活動を通して感情の表出を促し、感情への対処法を学びます。

参加した子ども、ご家族からの声

参加した子どもたちから「もっと病気について知りたい、気持ちのことを調べたい」「いろんな人と楽しく話し、みんなの意見や考えを聞けて良かった」などの感想がありました。また、親である患者さんご本人からは、「いろんな気持ちがあっていいこと、自分の気持ちを大切にしていいことが分かり、子どもが素直に自分の気持ちを伝えてくれるようになった」、「子どもがあまり気持ちを出さない性格のため、子どもの親のがんに対する気持ちを知ることができてよかった」などの声が聞かれました。

COVID-19感染症流行により、現在はWebで開催しております。今後の開催予定は裏表紙のInformationをご参照ください。

	テーマ	あつかう感情	活動
1	自分自身やがんにまつわる話を共有し孤立感を弱める がんという病気とその治療について知識を得る	幸せ・楽しい 混乱	自己紹介カード がんを理解する紙芝居 大切な人を模した人形作り
2	悲しい感情を表現し緩和する 子どもの持っている強さを引き出し、不安を緩和する	悲しみ 怖い・不安	強さの箱
3	怒りの感情を適切に表現し対処する方法を考える	怒り	怒りバイバイさいころ
4	家族とのコミュニケーションを手助けする	さよなら	お見舞いカード

AYA世代（思春期・若年性成人）のがん患者さんのサポートチーム

整形外科 医師　中山（なかやま） タラント ロバート

AYA世代とは、Adolescent and Young Adult（思春期および若年成人）の略で、主に15歳～30歳代までの世代を指します。AYA世代は就学や就労、結婚や出産、親の介護といった、さまざまなライフイベントが起こる時期であり、社会の中核を担う世代です。病気に対する治療だけでなく、小児とも、高齢者とも異なるAYA世代の患者さんに特徴的な精神的・社会的ニーズに対して、長期的な視点にたったサポートが必要です。AYA世代のがん患者数は全がん患者数の約2・5％と報告され、必ずしも多くありません。さらに、患者さんがさまざまな専門診療科に分散しているため、AYA世代のがん患者さんのニーズに関して深い知識や経験を蓄積することが難しいです。国内では2018年に策定された第3期がん対策推進基本計画に基づき、本格的なAYA世代のがんへの取り組みが始まりました。地域がん診療連携拠点病院（高度型）である当院でも、AYA世代のがん患者さんの治療を充実させるとともに、ライフステージに応じたきめ細かなサポートを提供していきたいと考え、AYA世代のがん患者さんの支援を行うチーム（以下、AYA支援チーム）を結成しました。AYA支援チームは、医師、看護師、薬剤師、診療放射線技師、医療ソーシャルワーカー、チャイルドライフ・スペシャリストなどの多職種で構成されています。2021年度は妊孕性温存療法、就労、アピアランスに関するセミナーを開催し、多くの方に参加して頂きました。今後も、慶應義塾大学病院全体でAYA世代のがん患者さんのサポートができるように、AYA支援チームは患者さんのニーズと病院が持つサービスを効率よくつなげ、院内の連携拠点として活動していきたいと考えています。

薬剤師による服薬指導の様子

医療ソーシャルワーカーによる療養相談の様子

Information

2号館の中庭について

グランドオープンを機に、2号館の中庭が綺麗になりました。多彩な花や葉が四季で変化し、一年を通して風景を楽しむことができるよう植栽が配置されています。中央の時計は医学部の卒業生から寄贈されたものです。
2号館のエレベーターホールからご覧いただけます。

タクシーの感染防止対策について

当院正面玄関では日本交通株式会社のタクシーをご利用いただけます。当院に配車されている同社車両はすべて感染防止対策を徹底し、車内に高効率空気清浄機、空気清浄度モニター、新型の飛沫防止シールドを装備しています。花粉症対策としても有効で、安心してご乗車いただけます。

患者サロン

がん相談支援センターでは「患者サロン」を定期的に開催しています。頑張っていること、工夫していることなど、Zoomを通して語り合いませんか? 皆様のご参加をお待ちしております。最新の情報は下記QRコードに更新していく予定です。ご確認いただけますと幸いです。

【2022年度開催予定】
第2回　2022年12月1日(木)
第3回　2023年　2月

最新の情報はこちらのQRコードからご確認ください。

【お問合せ】
慶應義塾大学病院　がん相談支援センター(2号館1階1R)
電話:03-5363-3285

Web CLIMB® プログラム

2022年度Web CLIMB® プログラムは、
秋冬2回の開催を予定しています。

秋:10月2日、9日、16日、23日
春:2月26日、3月5日、12日、19日

ご参加をお待ちしています。日程が近づきましたら、申し込み方法などの詳細を病院ホームページに掲載いたします。ご参照ください。

病院HP > 来院・入院の方 > 来院の方(初めて受診する方)(通院・再来の方) > がんと診断された方へ>7.がんに関する相談・支援>7.3がん患者とその子どものサポート
URL:https://www.hosp.keio.ac.jp/annai/raiin/cancer/#anchor-12

アンケートにご協力ください

こちらのQRコードからアンケートにアクセスしていただき、広報誌すゝめで読んでみたい記事など、ぜひご意見をお聞かせください。

COLUMN　駐車料金のご案内

院内の駐車場は、送迎目的等での利用の場合、入庫から15分以内は無料です。15分を超える駐車には次の料金がかかります。

(1)一般の方・面会の方
最初の60分は1000円、以降30分ごとに500円。

(2)外来受診の方・障害者の方
割引価格適用。入庫から5時間まで、最初の60分は500円、以降30分ごとに250円の「時間制料金」。5時間を超え8時間までは固定制「最大料金」の2500円。8時間を超えるたびに新たに「時間制料金」の加算と「最大料金」適用が繰り返され、積算されていきます。
※割引手続きは「1号館1階案内」、「2号館1階総合案内」で承ります。外来受診の方は駐車券と診療費領収書、障害者の方は身体障害者手帳等をご提示ください。外来割引は受診当日のみ有効です。

(3)入退院時
入院日と退院日は、駐車料金がそれぞれ終日無料です。

(4)事前精算機をご利用ください
出庫ゲートは混み合います。院内にも、1号館入口を入った左側に駐車料金精算機を設置しています。事前に料金精算を済ませることで、駐車場出口では精算済み駐車券を精算機に入れるだけでスムーズに出庫できます。割引と併せてぜひご利用ください。

〈受付時間・休診日〉

外来診療時間	8時40分～12時00分、13時00分～16時00分
面会時間	※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、現在、面会は制限させていただいております。詳しくは病院のウェブサイトをご覧ください。
休診日	日曜日、第1・3土曜日 / 国民の祝日・休日 / 年末年始(12月30日～1月4日) / 慶應義塾の休日(1月10日)

※2022年9月19日(月・祝)、2023年1月10日(火)は外来診療日です。

〈診療担当医表〉

このQRコードをスマートフォンなどで読み取っていただくと診療担当医表がご覧になれます。なお病院入り口脇の電子掲示板にも掲載しています。

「すゝめ」Vol.16　2022年7月29日発行　編集・発行/慶應義塾大学病院広報誌編集チーム
慶應義塾大学病院 〒160-8582 東京都新宿区信濃町35番地　03-3353-1211(代表)　URL: http://www.hosp.keio.ac.jp/